

<報道関係者各位>

**発汗状態では、対人距離 120cm 地点が最もストレス増大
体臭ケア行為*によってストレスが緩和される傾向を脳波解析で実証
～体臭ケア行為は、好きな歌を熱唱した時と同様のストレス緩和効果があることが明らかに～**

株式会社電通サイエンスジャム（東京都港区）は、当社 CTO 兼 慶應義塾大学准教授 満倉靖恵 監修のもと、若年男性を対象に脳波を解析し、体臭ケア行為によって対人ストレスを軽減させる傾向があることを、株式会社マンダムとの共同実験によって実証しましたのでお知らせいたします。

<実験概要>

目的 : 体臭ケア行為*の有無による対人ストレス値の変化を脳波解析によって実証する

被験者 : 18歳～22歳 男性 (8組)

実験日時 : 2016年12月9日(金)

実験概要 : (1) 被験者が発汗状態で、友人との距離が近づいてくる際のストレス値・好き値を測定し、体臭ケア行為*の有無で対照実験を行う
(2) 被験者が発汗状態で、密接距離における友人とのセルフイー行為の際のストレス値を測定し、体臭ケア行為*の有無で対照実験を行う

実験機材 : (1) 感性アナライザ

(2) ギャツビー スポットデオドラント ロールオン

*体臭ケア行為・・・発汗前にデオドラント剤(ロールオン)を両脇に使用

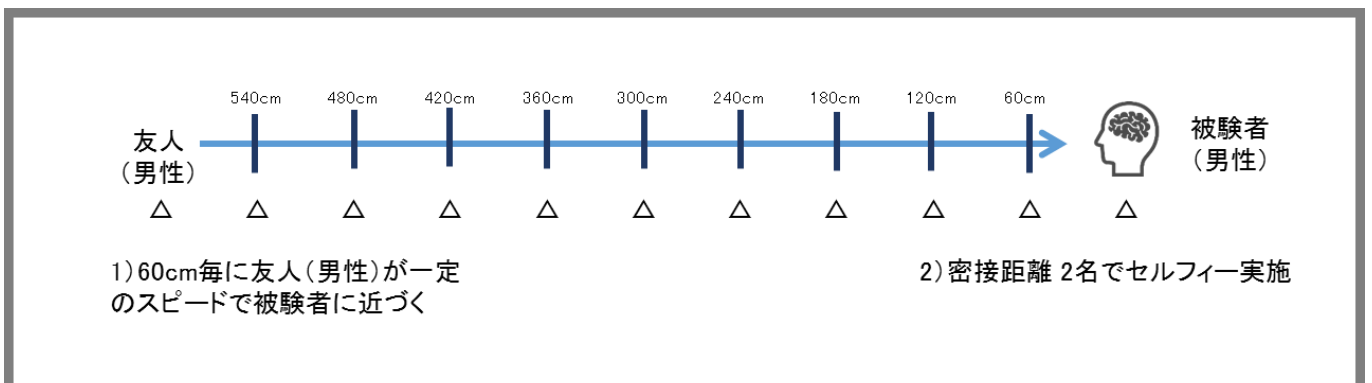


図 1.実験概要

DENTSU SCIENCEJAM

<実験結果 要旨>

- ・ 被験者の対人距離が 240cm よりも近づいた際に、体臭ケア行為無しの場合は対人距離が短くなるに伴い、ストレス値の変化量が大きく、体臭ケア行為有りの場合はストレス値の変化量が少ない傾向がみられた。(図 2)
- ・ 体臭ケア行為無しの場合は、被験者の対人距離が 120cm 地点で最も大きなストレス値の上昇が確認された。(図 2) 体臭ケア行為によって、対人距離が約 120cm 程度近づいた際に対人ストレスを軽減できる可能性があることが判明した。
- ・ 近接距離における友人とのセルフイー行為は、体臭ケア行為有りの場合の方が、全体として被験者の好き値が増加し、ストレス値が減少する傾向があることが判明した。(図 3) これは、人が好きな歌を熱唱した時に得られる変化と類似した結果であった。

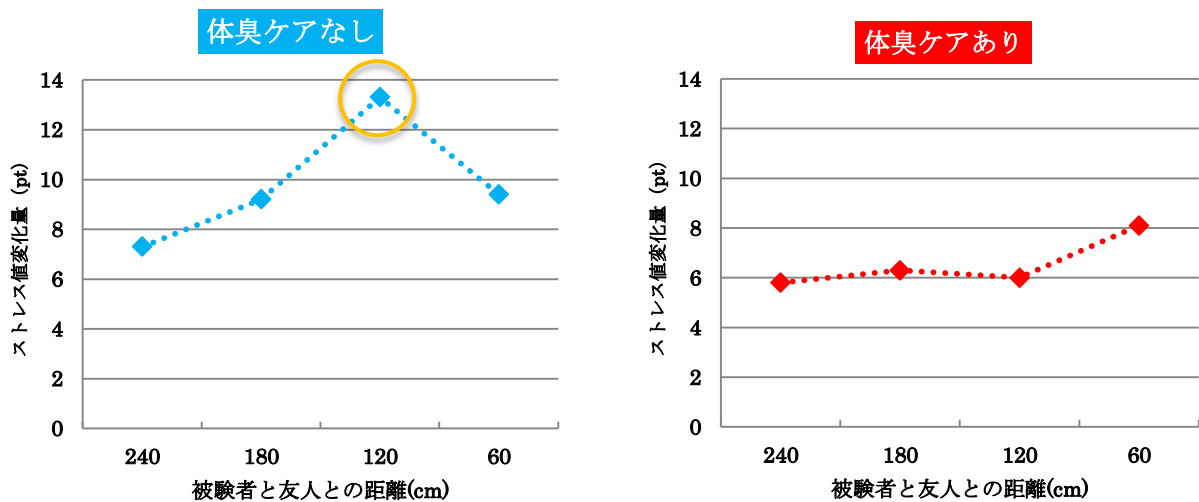


図 2. 各対人距離におけるストレス値の変化量 平均値

※ストレス値変化量：その地点での 5 秒間に生じたストレス値の最大値と最小値の差。ストレス値は被験者 8 名分の平均値を使用。

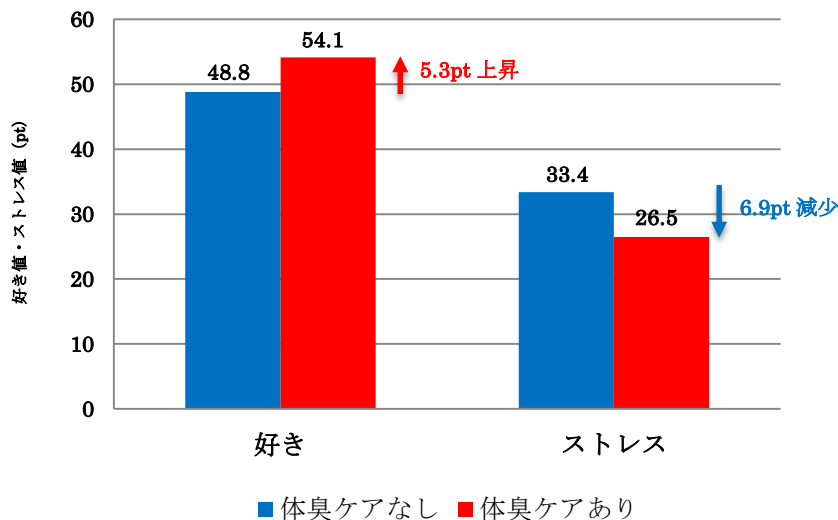


図 3. セルフイー撮影時におけるストレス値・好き値 平均値

DENTSU SCIENCEJAM

■会社概要

社名 : 株式会社電通サイエンスジャム (Dentsu Science Jam Inc.)

所在地 : 東京都港区赤坂4丁目2番28

設立 : 平成25年8月1日

代表 : 代表取締役社長 細金正隆

■本リリースに関するお問い合わせは

株式会社電通サイエンスジャム PR 事務局 (ビルコム株式会社)

担当 : 堀内

TEL : 03-5413-2411 FAX : 03-5413-2412 Mail : s.horiuchi@bil.jp